

令和7年度 第1回甲州市学校再編審議会 会議録

I 会議概要

- 1 開催日時 令和8年2月5日(木) 19:00~20:35
- 2 開催場所 甲州市役所2階 第1会議室
- 3 出席者 青柳俊雄委員、柴田幸也委員、那須美智子委員、古屋俊明委員、山縣重人委員、佐藤次夫委員、辻純二委員、中村英彦委員、佐久間覚委員、雨宮康順委員、前田史華委員
<事務局職員> 教育長小林俊彦、教育総務課長清水修、教育総務担当リーダー内藤智子、学校教育担当リーダー小林絵美、学校教育指導主事堀井ますみ、同金森淳、教育総務担当木曾川博文
欠席者 間下伸一委員
- 4 次 第
 - 1 開会
 - 2 委嘱状の交付
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 委員及び事務局の紹介
 - 5 会長・副会長の選任
 - 6 会長あいさつ
 - 7 諮問
 - 8 議事
 - (1) 甲州市学校再編審議会設置要綱及び名簿について
 - (2) 国及び山梨県の小中学校の適正規模・適正配置の考え方について
 - (3) 児童数一覧及び見込推移表
 - (4) 甲州市教育ビジョン2045
 - (5) 意見交換
 - 9 その他
 - 10 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 甲州市学校再編審議会設置要綱
 - 資料2 甲州市学校再編審議会委員名簿
 - 資料3 文部科学省作成小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方
 - 別添1 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引

- 資料 4 学校の小規模化によるメリット・デメリット
- 資料 5 児童数一覧及び今後の推移
- 資料 6 甲州市教育ビジョン2045

II 会議録

1. 開会

事務局：定刻となりましたので、ただいまから第1回甲州市学校再編審議会を開会させていただきます。まず、はじめに甲州市教育委員会小林教育長から委嘱状の交付をさせていただきます。お名前をお呼び致しますので、その場で受領の方をお願い申し上げます。教育長よろしく願います。

2. 委嘱状の交付

教育長より交付

事務局：つづきまして教育長よりごあいさつをいただきます。小林教育長より願います。

3. 教育長あいさつ

教育長：皆様こんばんは。教育長の小林俊彦と申します。どうぞよろしく願います。本日は大変お忙しい中、また夕飯時、さらに立春を過ぎましたが、お寒い中、第1回甲州市学校再編審議会にご出席いただきましてありがとうございます。また、委嘱式におきまして、委員の方をお引き受けいただいたことに大変感謝いたします。どうぞよろしく願います。

先日1月31日に、東京の日本教育会館で全国農協観光協会の主催で行ったんですが、第36回民俗芸能と農村生活を考える会ということで、甲州市の郷土芸能ということで一ノ瀬高橋の春駒を公演いたしました。保存会の皆様方が素敵な春駒をご披露いただいて、本当に私も改めて感動したところがございます。主催者の話を聞きましたら、この春駒を見ていただいた方、会場がですね800席あったのですが、だいたいその半分400くらいのおそらく都内の方だと思うんですけども、お集まりいただいて、後で記念撮影をしていただいていたんですけども、今年の秋この公演をもとにですね甲州市に興味を持たれた方は、ツアーでお出でになってくださるということで、今人口減少少子化が進んでいる中でありますが、こうした取り組みも進めているところでございます。

その際、甲州市の紹介を生涯学習課の担当がしました。その話を聞いておりましたが、甲州市の今年の1月1日現在の人口は29,000人を切っております。そういう状況でございます。そして今年度市制施行20周年を迎えておりますけども、甲州市制が誕生した時に、人口は37,000人ございました。ですので、約8,000人ほど20年の中で、人口が減少してきております。

平成17年市制施行なんです、その10年後平成27年度に、こうした日本の全体の人口減少少子化が進んでいるということで、文部科学省で平成27年に公立小学校中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きがまとめられています。甲州市は皆さんご存知だと思いますが、中学校を再編させていただきました。令和4年4月1日に大和中学校が勝沼中学校のほうに再編され、昨年令和7年4月1日には塩山北中学校が塩山中学校に再編されたというような状況でございますが、今また新たにですね、この時期でございますが全国でやはり非常にこの問題が深刻厳しい状況になっておりまして、今文部科学省の方では令和の日本型学校教育を推進する学校の適正規模・適正配置のあり方に関する調査研究協力者会議というのが進められています。インターネットで検索しますと、その会議の審議状況や会議で配られている資料等を見ることができますので、時間等ございましたら見ていただければと思います。ちょっと見ましたら、日本の人口ですが、平成27年の時に1億2,710万人人口がございましたが、令和6年の段階で人口はどうなっているかと申しますと、1億2,380万人ということで、約330万人10年間で減少しております。公立小学校中学校に通う児童を生徒数でございますが、平成27年に9,616,553人だったんですが、令和6年の段階で8,768,484人ということで約10年で85万人減少しているということでございます。それで学校の状況はどうなっているかと言いますと、この後、適正規模・適正配置というのがどういう学校なのかお示されるんですけども、適正規模・適正配置というのは、1学校12学級から18学級というのが標準規模になりますので、小学校の場合、1学年2クラスから3クラスというのがこの標準規模になります。それで、平成27年の時にこの標準規模に満たない学校が全国でどのくらいの割合あるかという、このすでに標準規模に達してない学校は、小学校が全体の45.1パーセントという状況でございました。もう半数に近いところがこの標準規模には満たなかったです。それが令和6年にどうなっているかと言いますと、41.6%にその割合が減っています。ということは、この標準規模になるように学校の再編が進んでいるのではないかというふうに推察されます。

そして公立小学校の数はどうなっているかという、平成27年に29,939校だったわけですが、令和6年には27,539校ということで約2,400校減少しているというような状況になっています。

今、市町村で市町村の中に1小学校1中学校という状況の市町村がございます。1つの市1つの町1つの村で、1つの小学校と1つの中学校というところが、割合がどうなっているかと言いますと、令和6年16.1%になっている。全国の市町村において、1小学校1中学校の市町村が1割を超えてきているということを皆様にお伝えをしたいと思います。

それで甲州市に戻りますが、12月議会で鈴木市長が市政の概要の中でお話をさせていただきましたが、甲州市におきまして児童生徒の減少が止まりませ

ん。令和13年度、6年後には市内の小学校に入学するお子さんは住民基本台帳によると104人でございます。こうした状況になってくるということで、市長につきましては、子供たちの学びがそうした中で、きちんとその学びを保障していくためにはどうしたらいいのかということで、この学校再編審議会の方で検討していただくように鈴木市長から教育委員会の方に指示をいただき今回の再編審議会に至るということでございます。

それで、前回の甲州市学校再編審議会の答申書が、令和2年1月27日に報告書が出されています。これを見ますとこの発足が、令和元年8月28日に第1回目の甲州市学校再編審議会が行われ、会の回数といたしましては、計5回審議し、1月27日の段階で再編審議会会長様より教育長の方に答申書が手渡されている経過でございます。この答申書を見ましたが、令和元年の7月1日現在、甲州市の小学生は1,387人、中学生は789人でございます。今、甲州市の児童生徒数がどうなっているかといいますと、小学生が1,201人約200人近く減少しております。そして、中学生は617人ということで、こちら約180人減少しているというような状況でございます。計5回の審議の中でいただいた基本の方針でございますが、小学校についてはこのように記載されております。市内13小学校において、その多くが単学級1つの学級であり、5校に複式学級があるということで、そうした中で、多様な考え方に触れる機会が少ない、切磋琢磨する機会が少ない、友人関係が固定しがちであるなどの課題が挙げられて、その課題克服に努めてきている現状について触れられています。報告書としては、基本方針としてこのように指摘されております。小学校は単に教育施設という位置付けだけではなく、地域に必要とされる施設であり、学校がなくなってしまうと、その地域が衰退してしまう恐れがあることなどに鑑み、現状のまま存続するというふうなことで小学校は報告がされております。中学校につきましては、本当に慎重審議をしていただきましたが、現行維持の考えと、統合再編の考えがいずれも一長一短ありということで、両論併記で報告されているというようなことをこちらで紹介をさせていただきたいと思います。そして令和2年1月27日からちょうど5年が経過してきましたが、今話をさせていただいた現状が今生まれております。

この後、事務局で用意いたしました甲州市の学校の状況について紹介をさせていただいたり、それから適正規模・適正配置に関する情報を皆様方に紹介をさせていただきたいと思いますので、ぜひこれからの審議を皆様方大変だと思っておりますが、ぜひどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

4. 委員及び事務局の紹介

事務局：それではここで各委員さん並びに事務局の紹介に移らせていただきます。大変恐縮ではございますが、自己紹介で紹介をしていただければと思いますので、資料2の名簿順に自己紹介をお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたし

ます。

(各委員自己紹介)

ありがとうございました。それでは事務局の方も自己紹介をさせていただきます。

(事務局自己紹介)

このスタッフでこの会の事務局をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

5. 会長・副会長の選任

事務局：それでは次に会長、副会長の選任をさせていただきます。要綱では、委員の互選によることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

もしよろしければ事務局案を発表させていただければと思いますがよろしいでしょうか。

委 員：賛成

事務局：それでは事務局の案といたしましては、会長に青柳俊雄委員、副会長に古屋俊明委員をお願いをしたいと存じますがいかがでございましょうか。

委 員：賛成。(拍手)

それでは二人の方々には大変ご苦勞いただきますが、是非よろしくをお願いをしたいと思います。それでは青柳会長には恐れ入りますが正面の席の方へご移動をお願いいたします。

ここで青柳会長よりごあいさつをお願いいたします。

6. 会長あいさつ

会 長：改めまして皆さんこんばんは。大役を仰せつかりました。先ほどご挨拶させていただきましたが、退職して4年目になる青柳と申します。どうぞよろしくお願いいたします。大変難しい審議または内容になろうかと思えますけれども、先程教育長が言ったとおり全国的に避けて通れない問題なのかなと感じております。何か先に決まったことがあるわけではなくて、将来の甲州市の教育をどうするんだ、それから子供たちの成長をちゃんと保障していくんだっていう観点から、様々な方々に広く意見をいただいて、甲州市の教育の未来に向かって責任のある答申、それから方向性を出せればいいかなというふうに思います。委員の方々のご協力をよろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

それではここで小林教育長から青柳会長に諮問をさせていただきます。

7. 諮問

教育長から青柳会長へ諮問

8. 議事

事務局：どうぞよろしくお願いをいたします。それでは議事に入らせていただきますが、議事の前にみなさまにお諮りさせていただきます。本審議会につきましては、「甲州市審議会等の会議の公開に関する基準」によりまして、原則は公開することとなっております。この後、議事の中に意見交換が含まれております。委員の皆様が率直な意見交換が妨げられる恐れがございますので、以降は、非公開とさせていただきますと考えておりますが、いかがでございましょうか。なお、公開、非公開に関わらず審議会の会議録に関しましては、委員の皆様のお名前を伏したうえで、市ホームページ上に掲示することを考えております。ご審議をお願いいたします。

委員：異議なし。

事務局：それでは、意見交換以降につきましては、非公開といたします。

事務局：それでは議事に入らせていただきますが本委員会の設置要綱によりまして会長が議長になっていただくこととなっております。青柳会長には議事進行をお願いいたします。

議長：それでは議事に入ります。(1) 甲州市学校再編審議会設置要綱及び名簿について事務局の説明をお願いします。

事務局：審議会設置要綱についてになります。第1条目的及び設置では、少子化により児童生徒数が減少し、多くの小学校が小規模化している状況の中で、義務教育本来の目的を達成し、将来にわたり学校の適正規模・適正配置が維持できるよう、学校の再編等を審議するため、甲州市学校再編審議会を設置するものであります。所掌事務といたしましては、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申することとなっております。1として学校の適正規模・適正配置に関すること。2として学校の統廃合に関すること。3として前各号に掲げるもののほか、審議会が必要と認める事項に関すること。であります。組織といたしましては、12名、本日お集りの皆様でございまして、任期につきましては、答申がされるまでとなります。本日お集まりいただきました皆様方の多くは、各関係機関の代表としてご参集いただいておりますので、代表者に変更あるときは、委員の変更をさせていただきます、新たな委員には残任期間

をお勤めいただくこととなります。会議につきましては、公開といたしますが、会議の運営に支障があると認めるときは非公開とすることができるとしております。自由な意見の妨げになる恐れがありますので、先ほどご審議いただいたとおり、非公開とさせていただきます。この要綱に基づいてこの審議会を運営していくこととなります。

議 長：質疑はありますか。

委 員：なし

議 長：よろしいでしょうか。非公開につきましても、さきほどのとおりとさせていただきます。次に、(1) 国及び山梨県の小中学校の適正規模・適正配置の考え方について説明をお願いします。

事務局：義務教育段階の学校の目的は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことであります。学校では、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や、表現力、判断力、問題解決能力を育むことが重要であると言われております。

この視点から、法令上では、12学級以上18学級以下を標準と定めていますが、地域の実情等を考慮するなかで定めることとされています。

甲州市の状況につきましては、この後の資料で説明させていただきますが、小学校13校のうち12校は、1学年1学級の状況であって、さらに4校は、1人の教員が2学年を受け持つ複式学級が設置されています。

あらためて、資料3カラー刷りの資料、2ページをご覧ください。学校の適正規模を審議いただくうえで、検討の要否の目安として国が定めた表になります。この表に甲州市の状況をあてはめると、1から5学級が4校、6学級が8校、標準校が1校となり、適正規模に近づけることの適否を検討する状況にあることが考えられます。

一方で、現状の甲州市の状況から、少人数教育ならではのメリット、デメリットがあり、まとめたのが、資料4となります。学習面、生活面、学校の運営面等でそれぞれお示ししております。なお、別添1につきましては平成27年に国が定めた、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きとなります。全国的な少子化の影響、共働き家庭の増加、核家族化といった社会環境の変化を受けて、学校の適正配置を考える上での指針として示されたものとなります。ページ数も多い資料となっておりますので、ご覧いただければと存じます。

議 長：よろしいでしょうか。では、次に（３）児童生徒数一覧及び見込推移表について 説明をお願いします。

事務局：資料５をご覧ください。小学校１年生の現状と今後の推移をまとめた表となります。３年度から７年度までは、毎年５月を基準とする児童数調査に基づいた人数、８年度以降は、８月１日現在の住民基本台帳（住民票）に基づく見込みとしてまとめたものとなります。

１３年度に小学校に入学する児童の合計は１０４人となる見込みです。このお子さんたちは、６年度に生まれた方々であって、８年度小学校に入学するお子さんたちが６年生になったときの１年生ということになります。

１３年度の小学生の合計は、８７９人、学級数は７７、このうち１０人未満の学級数は４２（５４．５％）複式学級は１１（１４．３％）となる見込みです。

学級数が減少することにより、県から配置されます教職員は学校長、教頭を含め、最少で６人となることとなり、校務分掌の増加、校外学習への引率、運動会やマラソン大会の運営等、教員１人が受け持つ業務が増加することが想定されるところであります。

このことから、小学校の適正配置・適正規模をご審議いただくため、本日の会議を開催させていただいたところであります。

議 長：県が教員を配置していない学級には、市から配置をしているかと思いますが、状況はどうでしょうか。

事務局：教員は、県教育委員会が配置を行いますが、２学年を１人で受け持つ複式学級には１人しか配置されません。児童の学びを確かなものとするため、市の予算で教員を配置しているところであります。本年度は、８人、１３年度には１１人が必要となる状況であります。市で配置している方々は教員のＯＢ、ＯＧの皆さんであり、確保に苦慮している状況であります。今後１１人を確保する必要がありますが、大変厳しい状況であると言わざるを得ないところであります。

議 長：よろしいでしょうか。（４）甲州市教育ビジョン２０４５について説明をお願いします。

事務局：２０年後の甲州市を見据えた「甲州市教育ビジョン２０４５」についてご説明します。このビジョンは、学校、地域、市民の皆様とともに、困難な時代をしなやかに生き抜く学習者を育むための羅針盤として教育委員会が作成したものです。私たちが目指すのは、人・自然・ふるさとを愛し、予測困難な社会を協

働で切り拓く甲州人の育成です。甲州市独自の地域資源とICT基盤を最大限に活用し、社会がどう変わっても、目標や課題を対等な立場で共有し、互いの強みを活かしつつ協力して、社会や人生を切り拓いていく力を育みます。では、なぜ、教育を変える必要があるのでしょうか。今、私たちは予測困難な時代に生きています。次世代の子供たちが自らの人生を舵取りし、民主的で持続可能な社会を築くためには、教育の進化が不可欠です。生成AIの登場などにより、これまでの正解主義や同調圧力から脱却し、独自の発想や視点に価値が置かれる時代へと変化しているのです。背景には深刻な構造的課題があります。日本の人口は2050年には約1億人まで減少し、生産年齢人口の比率はかつての7割から5割へと低下する見込みです。また、デジタル化、グリーン化という世界的な構造変革の中で日本の人材育成は深刻な課題を抱えています。

そして、私たちの甲州市も例外ではありません。今後6年間で児童生徒数は約22%減少し、特に深刻なのは、市内13の小学校のうち、過半数を超える7校が、複数の学年が同じ教室で学ぶ複式学級になるという点です。少人数はきめ細かさという利点もありますが、一方で、多様な意見に触れたり、切磋琢磨したりする集団としての学びをどう維持するかが、最大の課題となっています。これまで通りの学年・学級という枠組みを維持すること自体が物理的に困難になりつつあり、これは子供たちの学びの質に直結する、まさに喫緊の課題と言えます。しかし、私たちはこの状況を、単なる人数の減少というマイナスの変化として捉えるべきではありません。実は、この物理的な集団の変化と呼応するように、今、世界全体で学びの定義そのものが変わろうとしているからです。これからの時代に求められるのは、一人ひとりの独自の発想や視点です。これまでの当たり前が維持できなくなる今、私たちは多様な子供たちが自ら人生を舵取りできる、新しい教育の姿を模索しなければなりません。こうした状況に対し、国も新しい方針を示しています。次期学習指導要領は、未来の教育が向かうべき方向として3つの方針を示しています。

1つ目は、質の高い学びの実現です。単なる知識の習得に留まらず、『主体的・対話的で深い学び』を全ての子供たちに実装することを目指します。2つ目は、多様性の包摂です。不登校や特異な才能を持つ子も含め、一人ひとりの意欲を高め、可能性を最大限に開花させる柔軟な教育課程が求められています。3つ目は、実現可能性の確保です。持続可能な教育環境を築くため、教師と子供の双方に『余白』を創出することが不可欠です。これら『質・公正・持続可能性』の3つを同時に満たしていくこと。これが国が示す大きな方向性であり、現場を預かる私たちにとっても共通の課題と言えます。

では、この指針を、ここ甲州市という場所で、どのように具体化していくのか。本市の子供たちにとって、本当に必要な環境とはどのようなものか。それに対する、現時点での最良の答えとしてまとめたものが、『甲州市教育ビジョン2045』です。その中核となるのが真の少人数教育というリアルな場での協

働と、先端技術というデジタルのベストミックスにより、世界に通じる教育都市をめざすハイブリッド・モデルの構築です。リアルな場での深い対話や協働。そして、場所や時間の制約を越え、一人一人の進度に合わせるデジタルの力。両者をベストミックスさせることで世界に通じる質の高い教育へと転換させていきたいと考えています。

では、このモデルによって子供たちはどのように変わるのでしょうか。まず、小学校段階から適正な集団を維持することで、多様な意見に触れ、折り合いをつける力を養います。これがたくましい社会性につながります。一方で基礎学力については、デジタルも活用し、誰一人取り残さない個別最適な学びを保証します。質の高い教育は、都市ブランドとしての効果も期待できます。子供たちが自信を持って自分の道を歩んでいけるように。そして、どの子にもきめ細かく寄り添い、確かな成長を支えていけるように。私たちは、甲州市における教育環境を根底から見つめ直し、真の少人数教育を実現するための適正化を追求します。より人間的な関わりに軸足をおいた教育環境を目指していきたいと思えます。これからの学校は、ともに成長するために集まる場所として役割がより重視されるようになります。他者と折り合いをつける、チームで何かを成し遂げる経験はリアルな集団にこそ存在します。対話を通じて納得解を導き出す経験の積み重ねがしなやかな人間関係を形作る礎となります。

また、甲州市の強みは「地域」にあります。2045年に向けて地域の専門家や市民の方々に先生になっていただき、子供たちが地域の課題解決に挑む。甲州というフィールドそのものを学びの場とすることで、ふるさとへの愛着と、社会を切り拓く実感を育てていきます。

ここまで2045年に向けた新しい教育の形についてお話してきました。しかし、これらは決して今あるものを壊して全く新しいものにすり替えるという話ではありません。甲州市の各学校で積み重ねている実践こそが未来を作る土台となります。甲州市夢をかなえる学びのプロジェクトを中核とした甲州市学校教育グランドデザインに基づいた取組は理論と実践を往還する研修の充実による指導者の資質向上や自立した学習者を育成するための取組を推進しています。甲州市は今、国の先進事業をフル活用し、教育のフロントランナーとして走り出しています。『リーディングDXスクール事業』や『生成AIパイロットスクール事業』、そして柔軟な授業構成を可能にする『授業時数特例校制度の活用』。現場の先生方と教育委員会が一つになり、この先進的な取組に情熱を持って取り組んでいます。さらに、地域課題解決型の探究活動も進めています。甲州市の各校で取り組んでいるのは、単に地域の歴史や名産をインターネットや本で調べる調べ学習ではありません。子供たちが自ら街へ出て、地域のリアルな困りごとや課題を見つけ出し、自分たちに何ができるかを考え、解決策を提案していく活動です。地域の課題を自分たちの課題として捉え、行動する。そんな頼もしい子供たちを、地域の皆様と一緒に、この甲州というフィールド

で育てていきたいと考えています。

これまで、『学び』の形についてお話ししてきましたが、それらを実現するために、私たちが何よりも大切にしていることがあります。それは、子供たちの『心の安定』です。心が安心感で満たされて初めて、子供たちは新しいことに挑戦する勇気を持つことができます。そこで甲州市では現在、『データや専門機関との連携』を強化し、子供たち一人ひとりの小さな変化をキャッチする取組を進めています。現在進めているこれらの実践を「点」で終わらせることなく20年後の未来に向けて太い「線」へとつなげていく必要があります。最後になります。このビジョンは、一方的なマニュアルではありません。20年後の子供たちにどんなバトンを渡せるか。その問いを胸に、学校、保護者、地域の皆様と対話を重ね、一歩ずつ共に創り上げていくものです。甲州の子供たちが『この地で学べてよかった』と胸を張って言える未来を、皆様と共に築いて行けることを願っております。

ここで、皆様に学校で行われている授業をご覧いただきます。まずは、塩山南小学校の2年生国語説明的文章の読解の授業です。導入では、子供たちの興味関心を高める工夫をしています。文章の構造や読み進め方などの学習方法は丁寧に指導をします。指導後に子供たちに学習を委ねる場面では、学習形態を自己選択して課題解決に当たる工夫をしています。ツールとして、端末を選択する子もいればプリントを選ぶ子もいます。複数の友達との対話を通して自分の考えをアップデートしていきます。

続いて、塩山南小学校の5年生社会情報通信技術についての授業です。自分で学びを進められるように「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のサイクルで授業がデザインされています。教科書から情報を読み取ることや図や文を関連付けることを大切にして授業は進められています。端末の良さを生かし、読み取った情報を整理分析していきます。読み取った情報を整理できた子は、友達との対話を通して自分の考えを整理したり、深めたりしていきます。じっくり自分のペースで学習を進める子もいます。1時間の授業の中で、複数の友達と対話し、アウトプットを通して自分の考えを再構築していきます。学年があがると自分の考えを表現する力も高まってきます。以上です。ご清聴ありがとうございました。

議長：実際の授業風景も見させていただき、先程甲州市教育ビジョン2045ということで、すぐ先のことだけではなく中長期的なビジョンをもって甲州市の発展を図ることが非常によくわかるなど個人的には思ったのですが、(1)から(4)までの本日の説明を受けまして、再編審議会として様々な角度からご意見をいただくのがよいのかなと思います。前回の再編審議会の答申を出すのに年間5回あったと、どんな形で今後進めていくのかという、様々なアンケートを取ったりですとかいろんな流れになろうかと思えますけど、大きな流れの

ビジョンを後ほど課長さんのほうから教えていただければありがたいなど。5回あって毎回何をやるんだろうと来るのではなく、ビジョンを持って皆が集まればいかなと思いました。それでは(1)から(4)に関わってこれからは、非公開ということですので、委員間の意見交換としたいと思えます。いかがでしょうか。

委員：資料3文科省が示している適正規模・適正配置の基本的な考え方の対応の目安という表、甲州市内の小学校、どの学校がどの階層にあてはまるのか、学校名を教えてください。

事務局：国が示した学級数に当てはめると、1～5学級は、大藤、神金、玉宮、大和の4校、6学級は、塩山北、奥野田、松里、井尻、勝沼、祝、東雲、菱山の8校、国が示す基準に当てはまっているのは、塩山南となります。

議長：DXの推進については私が現職の頃も、GIGAスクール構想がコロナを契機に一気に入ってきた中で、今はかなり子供たちもデジタルネイティブだし、そのころ危惧されたのが、使うことが目的になってしまうところから、それをきちんとツールとして学びに繋げていくというところは、だいぶ進化してきたのではないかなと感じています。市全体として取り組んできた成果だと思えました。先ほど説明がありました、甲州市のビジョンの中の真の少人数教育、リアルとデジタルのハイブリッドなのだというのが、大きなビジョンを持っているところは非常に好感を持てますが、一点、真の少人数教育の中の、少人数というものの適正な人数ですかね、25人という設定をしていると解釈できますが、それをロードマップとしていくということ、それでよろしいですか。

事務局：山梨県におきましては、全国的に先駆けといたしまして、令和3年度から小学生につきましては、1学級25人という形で進めさせていただいております。今年4月には全小学校の6学年において、25人学級が実現されるということでございます。そのことを受けまして、本市につきましても適正な規模に基づきビジョンを作らせていただいております。

委員：2045ビジョンというのはいつ作られたのですか。前回の答申の時にはまだできていなかったものなのですか。

事務局：2045ビジョンは、先程申し上げました令和13年度に小学校1年生が104人になることが昨年8月の段階でわかりましたので、そこからどうやって本市の教育を進めていくべきかということで作り始めたものです。本日の会議で一般的には初めてお示しさせていただきました。前回の令和元年度の時には、

このビジョンに関しては作られていなかったという状況です。

委員：このビジョンには25人というものが当たり前のように出てくるので、前回の時には25人はなかったと思うので、25人というものがどうなのかなと思うところがありまして、25人が多いのか少ないのか、25人にするとすると、学級数が複数にいていない学校が該当するのかなという気もするのですが、前は小学校まではそのままで行こうということでしたが、地域のところとしては、なかなか小学校を潰してはほしくないんですよ。正直言って。自分たちが育ってきたときから小学校があるのが当たり前だったので、そういう観点もあるのですけれど、教育の立場からすればなかなか難しくなっていることもわかるので、そういうところも私たちが全部答申としてまとめるということですか。

事務局：学校は地域の核であると言われていました。また、学校教育という面だけでなく、例えば防災であったり地域の交流の場であったりとも言われています。したがって、地域から学校がなくなるということは大変大きなことであると私どもも考えております。また、一方で子供たちにとって学びの環境がどういったものがよいのか、そういったところも考えていかなければならないというところから、今回の審議会を立ち上げさせていただきまして、皆様でご協議を進めていただければというところなんです。その両面があるということでお含みいただければと思います。2045ビジョンは、先程申し上げました令和13年度に小学校1年生が104人になることが昨年8月の段階でわかりましたので、そこからどうやって本市の教育を進めていくべきかということで作り始めたものです。本日の会議で一般的には初めてお示しさせていただきました。前回の令和元年度の時には、このビジョンに関しては作られていなかったという状況です。

教育長：25人学級というのは、県が県下一斉の中で、目安として少人数学級の基準ということで、25人を提示しています。国は今35人になっています。山梨県においては、少人数で子供たちに豊かな学び確かな学力をつけさせたいということで、25人というものを目安として提示しています。甲州市をこの会議で、25人学級で一律考えています、と言うことはとても現実的ではないのかなと思っています。ですが、将来的に少子化が歯止めがかからない状況になってきます。現に1人とかという学級が誕生しようとしていて、その中でその子の学びをどうしていくかということは、私たちが責任を持って考えていかなければならないと考えていて、これからの子供たちに学びを保障していく上では、甲州市として、今後の学校の在り方をどう考えていくかということで、ご審議をいただくということで、25人学級にしていきますということではないので、

ぜひそこをご理解いただきたいと思います。

先程市によっては1小学校1中学校ということで、おそらくそれは大胆な考え方でされていると思いますが、先日祝小学校へ群馬県の吉岡町というところから教育委員会学校関係者が15人視察に来られました。祝小学校はリーディングDXで先進的な取り組みをしていて、国でも注目をしているということで来ていただきましたが、群馬県でも少子化が進んでいるそうですが、どの地域も減っていくけれども、吉岡町では人口が増加しているらしいです。今の段階で22,000人を越えているらしいです。そこは2つの小学校1つの中学校に再編している。ですので、祝小学校へ来られた小学校の先生たちは、600人以上の学校の先生たちで、60人の祝小学校へ視察へ来た。そういった現状も全国では見られるということを紹介させていただきます。

委員：先生方がいっぱいいらっしゃるのをお聞きしたいのですが、資料4なんですけれど、メリットデメリット出てくるんですけども、この人数より少ないとちょっと無理だよと、逆にこの人数だと大きすぎるよというような、素人が目安にしたいような数字がありますか。

事務局：非常に難しいご質問でして、明確に何人というところは正直なところ申し上げて、この人数ということはないかなと思っています。各学校ごとに学びの場に関してはそれぞれ特色がある中で進めていただいているということもございしますので、人数が少ないからどうだ、人数が多いからどうだということではないかなというふうに思っております。ただ、ここにありますとおり、国が示している中の基準的な考え方にそれぞれあてはめていくと、メリットデメリットがそれぞれ出てくると、それを表にまとめたものでございます。現在の甲州市が、13校中12校が1学年1学級という状況でございます。そのことから判断する中で、国が示す基準1学年2学級から3学級という基準がありますが、そのとおりにしましょうという話ではございませんが、ある程度目安の中基準的なものとして考えていただければと思っています。

委員：現場の感覚として、私は小学校の教諭を長くしてしまして、昔から思っているのは、多様な関わりというようなところで言うと、自分が担任していた時は24という数が、割り切れるんですよ、6とか4とかグループで話すというようなところで考えていました。今現状見ていただいたように、学校はほぼ20人前後なんですけども、グループを教員が意図して作ってってわけではないので、いろんな子供のところに話に行ったりヒントをもらったり、またはアップデート、自分の考えをブラッシュアップしたりしてというようなために、いろいろ行くと考えると20人とかいるとやりやすいな、逆に、一人だったら当然ですけども数人というところでも話はできるんですけど、深まりとか広がりいう

ようなところではちょっと厳しいのかなという感じはします。ですので、10何人くらいから20人規模くらいいると、資料のメリットの中で一人一人に目が届きやすい、そういうところと言うと、基礎基本的なところと言うと、当然少人数で目が届きやすい方がいいんですけど、ディスカッションしたりブラッシュアップしたりというようなことを考えると、先程のような人数が妥当になるのかなというようなことの感覚は自分はずっと持っています。

委員：本校については1クラス規模なんですけど、一桁の子供たちになっています。子供たちの習慣として見たときには、人間関係が固定してしまったり、いろんな学びをやってきても、同じような子が発言したりというような形で、そこで子供たちの学びとしては、もう少しいろいろな考え方を学んでほしかったりするんですけど、それができないもどかしさがあります。

議長：数ありきではなくて、小規模の学校だから駄目なんだというわけでは全くない話でありまして、個々の学びと集団の学びを、学年を超えてでもできる部分もあったりということで、それぞれの成長を保障してあげることが大事であります。

委員：私は勝沼地区の代表となっているんですけど、4地区ありまして、4地区のそれぞれの区長会長と話をする機会もあります。その中で地区の学校の入学式へ出るとか、学校の会議へ出るとかというようなことがあった時に、区長会長で集まった時に、来年は入学生が何人とかの話になると、どうなってしまうのかね、という話をよくします。12月になってから勝沼地区の民生委員さんのお宅へ伺ったときに、その方が「会長知っています？令和13年度には甲州市全体で104ですよ」て、その時初めて聞きまして、今ここでこの表を見て、やっぱりそうなんだなと分かったわけですが、減っている現状を、私が確実に聞いたのは12月、それも民生委員から初めて聞いたような状況で、でも聞いたときに、授業をするためにはこのままじゃまずいのではないのかなと思いました。この減っていく状況を地域の方々にとどのようにお伝えしていくのか、公開するような機会はあるのでしょうか。

事務局：本日の資料、会議録はお名前を伏してホームページ上で公開します。子供たちの人数の推移というのは、地域の皆さんにとっても非常に大きな課題ではないかと思しますので、共にお考えいただくのが一つの資料として必要ではないかなと考えていますので、方法としては、ホームページなのか広報なのか様々な方法がありますので公表はしていきたいと思えます。

委員：方向性がわからない。統合するのかわからないのか。

事務局：この会議は、甲州市の小学校をどういうふうにしていくのがよいのかご判断をさせていただくための会議です。人数でいくと大変なのでいくつかに統合していかどうかという話もあるかもしれませんが、現状のまま進めてもいいのではないかと話もあるかと思えます。先ほど申し上げました2045年、今から20年後の甲州市の子供たちの学びをどのようにしていくのかというところからご判断いただいて答申をいただければと思います。具体的に今ある13校を何校にしましょうという議論の場ではありません。方向性として、今の学校をどういうふうにしていったらよいのかというところで、答申いただければと思います。

議長：本日は、委員の方々と現状把握と今後の見通しということを共通理解する第1回目だったと思います。ただ、このままずっといくということは難しいだろうという認識はできたのかなど。ただ、具体的に統合するのকাশないのかという観点だけでなく、将来にわたり子供たちの教育をどうするのか、何が望ましいのかと、適正人数の話もありましたが、個別の学びと集団の学びをどんな形で進めていくのかというところを将来にわたり、児童生徒数も鑑みながら、2回3回とご意見をいただきながら、方向性を見つけられればと思います。

議長：今後のスケジュールを示していただきたい。あと何回開催するか、どんな形で審議会を進めていくのか、内容がわからないと発言もできないので見通しを教えてください。

事務局：12月議会において、市長からは8年度末を目途に、小学校の方向性をまとめてほしいと指示を受けました。本年度と来年度1年かけて、ご審議をお願いしたいと考えております。

今後の進め方ですが、学校に関することですので、小学校に通う小学生、その保護者へのアンケート、先ほど委員からのご質問にもありましており、学校と地域とのつながりは深いこともありますので、現状やメリットデメリットをお示しする中で地域の皆様方からアンケートをとりたいと考えております。次回の会議ではその原案について、ご審議いただければと考えております。

次回は3月上旬に開催したいと思えます。また、来年度のことにはなりますが、県内外で取り組みを行っている先進地の視察もできればと考えております。

議長：ありがとうございます。次回は3月上旬頃開催ということと、子どもたち保護者等アンケートがありますので、その内容等をお諮りいただくことも示されましたので、その心づもりで参りたいと思えます。
それでは議事は以上で終了します。ありがとうございます。

事務局：長時間にわたりまして議事の進行、会長にはありがとうございました。また委員の皆様方には貴重なご意見をいただきありがとうございました。

9. その他

事務局：その他に入ります。何かございますでしょうか。

委員：審議会は昼開催もありますか。

事務局：皆さんお仕事もあると思います。今後も夜の開催にしたいと考えています。

委員：小学校のPTA会長が3月で終わるのですが、今私がこの話を聞いて、新年度になって新しいPTA会長にまた同じ話をされるのかどうか、それだったら、私がここにいる意味があるのかどうか。

事務局：この会は12月議会の中で市長から指示をされたのもで、喫緊の課題であることは間違いないので、本日第1回目の会議とさせていただきます。今後に関しましては今日お集りの皆様方は各会の代表ですので、4月以降会が変わったところで、委員の皆様も変わられること想定しております。来年度に入りそれぞれの会長さんが決まったところで、来年度の会議は進めていきたいと考えております。その中でまた一からという時間もかかってしまいますので、丁寧には説明させていただきますが、概略等で説明させていただければと思います。期間が短いという中においても、決して無駄だとは考えておりませんので、ぜひご参加いただいてご意見をいただければと思います。

教育長：甲州市の学校教育の現状を、できるだけ早い段階でできるだけ多くの方にご紹介したいと持っていますし、さらには今日お示しさせていただいたビジョン2045中長期的な学校教育をどう進めていくかについてもできるだけ多くの市民の皆さんにご紹介したいと考えております。2月25日に市民文化会館ホールで市制施行20周年を記念して各小中学校で学校の取り組んでいる様子と、戦後80周年ということで、各校で平和学習に取り組んだ様子をショートムービーにまとめて紹介させていただきます。委員の皆様にも、そんな機会もご利用していただければと思います。

委員：教育長からお話のあったイベントは平日の木曜日ということもあり、1回限りしか放映しないのか、それともCATV等のご協力をいただいて、市民の方にも見ていただくことで意識付けになるかと思っておりますので、ご検討をお願いします。

事務局：課内で検討させていただきます。

10. 閉会

事務局：古屋俊明副会長より閉会のことばをお願いいたします。

副会長：それでは第1回の審議会ですが、これをもって閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。